

## 電波観測部門報告 No. 218 The Report of Radio Meteor Observation in JAPAN

電波観測部門担当幹事 小川 宏 (Hiroshi Ogawa)

h-ogawa@nms.gr.jp

## 1. 2月度 定常観測報告

2月度定常観測を頂いたのは以下の方々です。(敬称略)

藤戸健司(三重)、坪井正紀(広島)、杉本弘文(東京)、相原正己(神奈川)、三部重雄(北海道)、

吉川泰史(愛知-28MHz)、久保田麻三留(神奈川)、齊藤直也(東京)、江原稔(埼玉)、

川口市立科学館[松田正彦](埼玉)、青森県立十和田工業高校無線部(青森)

2007年2月の流星電波観測結果国内統合グラフを図1に示します。例年通り、28MHz及び53MHzにおいて、目立った活動は捕らえられていません。

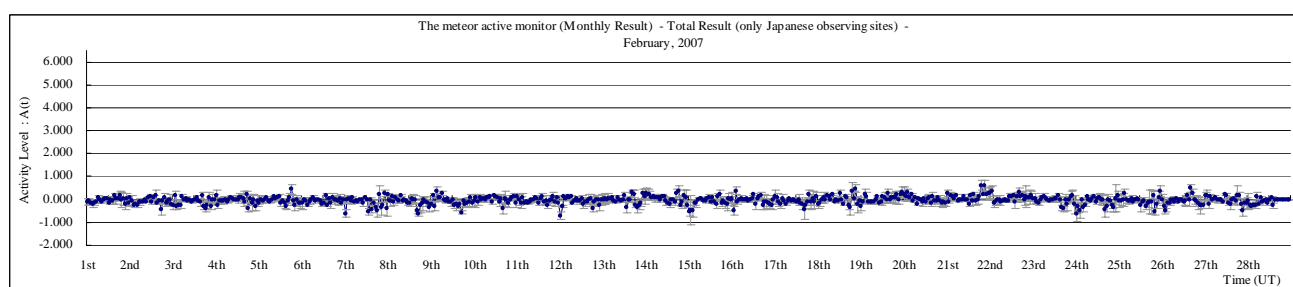


図1. 2007年2月流星電波観測 観測結果 (全国統合データ)

## 2. 4月観測指針

4月からは主要流星群の活動が見られ始める時期ですが、電波観測ではもうしばらく目立った活動が捕らえられない日々が続くようです。4月22日か23日には、こ座流星群が極大を迎えますが、活動規模があまり大きくないことから、年によってはActivity Levelには目立った数値として見られません。図2に2006年4月の全国統合データを掲載しておきます。2006年は若干の活動が捕らえられていますが、2005年にははっきりしません。ただし、こ座流星群は元々突発癖のある流星群ですので、監視が必要です。4月のこ座流星群を終えると、5月のみずがめ座 $\eta$ 流星群、昼間流星群そして夏の流星群へとイベントが続きますので、万全の観測態勢を用意しておきましょう。

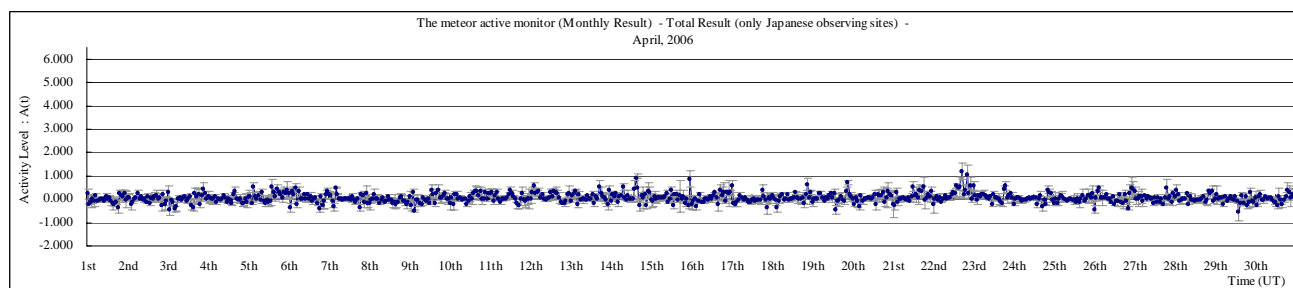


図2. 2006年4月度 全国統合データ

### みなさんの観測結果や解析・研究結果を是非お寄せ下さい (※Office2007にも対応できます)

天文回報では、日本流星研究会会員の方々から寄せられました観測結果や研究・解析結果に加え、流星電波観測国際プロジェクトで報告されているデータを取り扱います。流星電波観測国際プロジェクトについて、詳細は、<http://www.amro-net.jp>をご参照下さい。

みなさまからのご寄稿お待ちしております。原稿等については、Word (Word 2007も可)・一太郎・LaTeXなど、おおよそのファイル形式では対応できます。毎月5日を締切とし、翌月天文回報の原稿に掲載させていただきます。宛先は、h-ogawa@nms.gr.jpまで